

2025 年 5 月 5 日(月)

ミャンマー大地震から1ヵ月

ミャンマー中部で起きたマグニチュード 7.7 の地震から 1 ヶ月が過ぎました。被害の全容はまだまだ定かではありませんが、新聞報道によればミャンマー国内の死者は日本人 1 人を含めて 3,769 人、5,106 人が負傷し、107 人が行方不明となっています。倒壊した家屋も 6 万棟以上とされています。依然として 20 万人を超える人びとがビニールシートだけの仮設テントやシェルターでの生活を強いられているとも伝えられています(NGO セーブ・ザ・チルドレン)。また、多くの人びとが清潔で安全な飲料水を手に入れることができず、感染症の拡大が心配されています。

このような復興の遅れは、取りも直さず内戦状況というミャンマー国内の政治状況にあり、再編に不可欠な食料や医薬品などの輸送に不可欠な道路の復旧の目途さえが立っていないのが実情です。特に、国境周辺の山岳地域には多種多様な少数民族が居住し、大震災後に表明された国軍、民主派勢力双方の停戦は守られていないのが実情です。加えて、停戦期間の終了した今月からはさらに空爆や戦闘が激しくなるなど困難な状況となっています。

しかし、残念なことにミャンマーの様子は報道されることも少なく、人々の関心から隔たりがあることも事実です。終戦から 80 年目を迎えた日本、5 月 3 日は「憲法記念日」、平和の有り難さを知っている私達だからこそできることがあるはずです。地震と内戦という他国・地域とは異なる多重苦の中での生活を余儀なくされているミャンマー庶民に、一日でも早く安全で安心な日々が戻って来ることを願って止みません。募金活動もその一つですが、真実を知る努力こそ忘れてはなりません。
"なんのために生まれて なにをして生きるのか" —アンパンマン

石飛 一吉

参考資料

・Cesium の被災地デジタルマップ

東京大学大学院情報環学際情報学府の渡邊 英徳教授が、3D 地理空間プラットフォームを作成する企業 Cesium の衛星画像を使って被災地の 3D デジタルマップを作成解析しています。

<https://ion.cesium.com/stories/viewer/?id=1622e3ae-ccb9-4078-828c-6617ca4d5c43#slide-id-293283>

・NHK 衛星画像分析 ミャンマー大地震 震源近いザガインの被害状況(2025 年 4 月 28 日 14 時 26 分配信) <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250428/k10014791671000.html>